

Glocal Tenri



1

月刊 **グローバル天理** Monthly Bulletin Vol.15 No.1 January 2014

天理大学 おやさと研究所 Oyasato Institute for the Study of Religion, Tenri University

CONTENTS

- 巻頭言
初夢の数値目標
／深谷忠一 1
- 天理教教理史断章 (76)
家城文書⑤
／安井幹夫 2
- 天理教伝道史の諸相 (25)
岩手と青森の天理教
／早田一郎 4
- 「おふでさき」の有機展開 (21)
第三号：第百六首～第百十二首
／深谷耕治 5
- 新宗教のブラジル伝道 (9)
キリスト教の変容⑥
／山田政信 6
- 「いのち」をつなぐ一生死の現象 (25)
死者と生者の間に⑥
／堀内みどり 7
- ノーマライゼーションへの道程 (23)
福祉のまちづくり⑩
／八木三郎 8
- 平成 25 年度公開教学講座「信仰に生きる」：『逸話篇』に学ぶ (2)
第 7 講：5 「流れる水も同じこと」
／辻井正和 9
- English Summary 10
- おやさと研究所ニュース 11
第 264 回研究報告会：親について：Manji 事例から (堀内みどり) / 日本爬虫両棲類学会第 52 回大会への参加と発表 (佐藤孝則) / 第 265 回研究報告会：オーストラリア留学生生活報告 (土井幸宏) / 日本生命倫理学会公募シンポジウムで発表 (金子昭)

巻頭言

初夢の数値目標

おやさと研究所長 深谷忠一 Chuichi Fukaya

“新年こそは〇〇を達成！”と、お互いに年頭の目標を掲げますが、それを実現するためには、具体的な数値目標とロードマップ・タイムスケジュールを作ることが大事です。

先ず、我々の究極の目標“世界たすけ”についていえば、世界の人を残らずたすけるのに使える時間は、皆が 100 歳まで生きたとしても 100 年です。世界の人口を 70 億として、1 年間で 7 千万人の救済を 100 年間続けて、初めてその目標が達成されます。教えへの帰依が人のたすかる前提だとすれば、毎月 600 万人、1 日に約 20 万人、1 時間に 8 千人、1 分間に 130 人以上のペースで信仰が伝わらないと、世界たすけが成就しないのです。

次に、全人類の“おぢばがえり”(天理への参拝)について考えますと、世界から 70 億人が生涯に 1 度の帰参をするだけでも、1 年に 7 千万人、1 日に約 20 万人を受け入れねばなりません。各人の天理滞在を平均 5 日で計算しても、天理周辺に毎日 100 万人を収容する宿泊施設が必要になります。「奈良・初瀬七里は家が建て込み、一里四方は宿屋で埋まる」という教祖の御予言がありますが、毎日 100 万人となると、1,000 人泊まれる宿舎を 1,000 棟用意しなければならず、天理周辺にはマンハッタン以上の摩天楼が出現せざるをえないかもしれません。

また、毎日 20 万人ずつが訪日・帰国するためには、500 人乗りのジャンボジェット機が 800 回離着陸しなければならず、そのためには、24 時間使える 4,000m 級滑走路が 2 本必要です。天理への距離を考えれば、東の大和高原に新たに空港を造りたいところですが、空路や環境アセスメントを考えると、やはり、関空に滑走路 2 本を増設するのが現実的かもしれません。さらには、空港—天理間のアクセスも、往復で 40 万人を運ぶにはバスなら 8 千台必要ですから、リニアモーターカーなどで直結することも考えねばならないでしょう。

また、1 年に 7 千万人のおぢばがえりの費用を考えると、1 人平均 30 万円としても毎年 21 兆円(現在の日本の税収の約半分)が必要です。世界的な規模での基金の設立に加えて、富裕国ではおぢばがえり税の徴収など

も考慮すべきでしょう。

次に、世界たすけの人材—よふぼくの数について考えますと、物理的には 1 日に 1 千人のお運びを頂くこと(おさづけの理を頂いてよふぼくになること)が可能ですから、1 年で 35 万人、100 年で 3 千 500 万人のよふぼくを輩出することが予想されます。そのための別席については、ハード面では、毎日 1 万人の別席者を想定した別席場がすでにありますから問題はありません。ただ、ソフト面では、日本語以外の言語の取次人をもっと増やして頂く必要があるでしょう。

次に、3 千 500 万人のよふぼくの各国への配置数を現在の人口比で計算しますと、世界人口の 19.5%の中国が 6,825,000 人、インドが 6,160,000 人、EU が 2,450,000 人、アメリカが 1,575,000 人、ブラジルが 980,000 人、ロシアが 735,000 人、韓国が 245,000 人、日本が 630,000 人になります。現状は、日本以外の世界各国のよふぼく数がまだ足りませんので、とりあえずは、一人のよふぼくが千人力を発揮することが求められます。

次に、教会数について考えますと、16 人のよふぼくが教会設立の要件ですから、3 千 500 万人 ÷ 16 で、最大限 2,187,500 カ所の教会が世界各地にできます。そして、100 年間でその数の会長を輩出するためには、毎月 5,400 人の修養科生と、各々 1,800 人の教人講習の前・後期生と教会長任命講習生がおぢばで修養することになります。

また、全ての教会を人口比で各国に配置しますと、中国に 426,562 カ所、インドに 385,000 カ所、アメリカに 98,437 カ所、ブラジルに 61,250 カ所、EU に 153,125 カ所、韓国に 15,312 カ所、日本には 39,375 カ所が開設されることになります。また、教会の建物についていえば、70 億 ÷ 219 = 3,196 ですから、大きなものなら 1 万人以上、小さいものでも 2 千人は入れる神殿が建てられことになるでしょう。

「大きい心を持って通れば大きい成る、小さい心を持って通れば小そうなる。」(さ 21・7・7) “世界たすけ”を絵空事にしないように、せめて初夢だけでも大きい夢を見たいものだと思う次第です。